

第2号議案 2016年度事業報告

(1) 日本画像学会年次大会(第117回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2016」開催報告

実行委員長：大西康昭、実行副委員長：中山信行、藤井雅彦

2016年6月8日(水)～10日(金)の3日間、日本画像学会年次大会(通算117回)〔Imaging Conference JAPAN2016: ICJ2016〕を横浜市緑区にある東京工業大学すずかけ台キャンパス「すずかけホール」にて開催しました。

例年と同じく、ハードコピーをはじめとする各種マーキング技術、電子ペーパー/エレクトロニック・イメージング/新規イメージング/デジタルファブリケーション技術、そして画像処理や評価関連技術、計測/シミュレーション技術など、全部で12の技術分野について、14のセッションを設けました。特に今回は、近年その存在感を増している、「3Dプリンティング」を新規に独立した分野として設定していたしました。その中で、一般講演57件(受賞記念講演2件含む)と、招待講演9件(キーノートスピーチ3件、特別セッション講演3件、特別講演3件)を行い、またワークショップ3テーマと、関連企業12社による展示会も例年同様に開催しました。

本年次大会は通算117回にあたりますが、第113回となるICJ2014より、基本コンセプトを「豊かな画像空間の創造を目指す」と設定しています。さらに、この基本コンセプトにのっとり、ICJ2014では「魅せるイメージング技術：撮る、創る、伝える」をスローガンとして開催いたしました。今回は、これをさらに一歩進め、より生活と社会に密接したものと表現するために、大会スローガンを『Imaging @Life ～生活と社会を豊かにする画像技術～』としました。

これは、イメージングが我々の生活や社会をいかに広げ、満たしているか、そしてワークスタイルを多様化しているかを再評価し、また新たな気づきを得ることで、目指すべき姿を見出して将来につなげていきたいという想いを表しております。「魅せる」という提供者側の視点から、使う側の立場に立って、いかに身の回りでイメージングが生活や社会を豊かにしていることかを気づいていただきたいという意図もこめていきます。

今大会の特徴をいくつか紹介します。まず最大の特徴は、日本写真学会様との連携です。11月に開催している秋の関西地区大会では実施済みではありますが、6月の年次大会では初めての取り組みとして、日本写真学会様の年次大会(6月8日、9日の2日間開催)と併催といたしました。具体的には、8日、9日の2日間について、双方の年次大会を同じ東京工業大学すずかけ台キャンパスを使って開催し、相互の講演会の聴講が可能となるように企画しました。さらに、初日の8日に実施しましたポスター発表と、初日最後のイベントである懇親会は合同での開催としました。2日目にはD会場(すずかけホール3Fラウンジ)を共同利用とし、日本画像学会側の展示会と、日本写真学会様の講演会とを同会場で開催するという試みを行いました。この連携は、参加される皆様が同一の場所・時間で双方の展示や発表が見学できる利便性を考えたものであると同時に、双方の学会が生活と社会と豊かにするために、より緊密な関係

を追求していこうという考えに基づいています。将来的には、画像関連学会連合会（日本写真学会、日本印刷学会、画像電子学会、日本画像学会）としての合同開催を視野に入れていきます。

2点目の特徴は、今回初めて「公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー様」からの支援を得たことです。横浜観光コンベンション・ビューロー様の支援制度を利用して、カンファレンスバッグ、ボトルウォーター、アメニティグッズなど、総額40万円相当の物品を提供いただき、参加された皆様に配布いたしました。これも私たちの大会が、「公益」という観点から評価をされた結果であると考えています。

また、運営側の特徴は、前回ICJ2014より開設した常設のICJ企画委員会を、カンファレンス委員会に統合し、さらにICJコンセプトや運営方針の継続性を維持するため、カンファレンス委員会の下に常任実行委員を置く体制とした点です。この新制カンファレンス委員会では、学会のVision55に基づいて策定された、ICJの基本コンセプト「豊かな画像空間の創造を目指す」を数年間継続させることを決定し、この考えに基づきスローガン策定のベースとなる「方針」を「あなたの生活空間は画像でどう満たされるか」と立案しました。幹事会社は、実行委員会を組織し、カンファレンス委員会の方針に則ったICJ全体の企画運営を遂行することを任務として活動しています。本体制により、会場の設営やプログラム・タイムテーブル作製、日本写真学会様との連携など、常任実行委員の牽引力により質の高い運営を行うことができました。

大会初日(6月8日(水))は、大西康昭大会実行委員長（富士ゼロックス株式会社 研究技術開発本部長）より、開会の挨拶を行い、3日間の大会の幕を開けました。引き続き、最初のプログラムであるキーノートスピーチでは、「産業用3Dプリンタの動向とイメージング技術への期待」と題し、技術研究組合次世代3D積層造形技術総合開発機構 佐藤 昌宏様より、ご講演いただきました。近年個人用から産業用まで幅広く普及してきている3Dプリンタについて、特に金属製部品製作が重要となる産業用3Dプリンタにおける、「力」の伝達や、品質を確保する最新技術として、金属粉末を高エネルギー密度ビームにより溶解凝固させる造形技術などを解説していただきました。

キーノートスピーチに続いて、一般発表の最初のセッションとして、インタラクティブセッションのショートプレゼンテーションが行われました。先に述べたとおり、こちらは、日本写真学会様との合同セッションとし、日本画像学会から14件、日本写真学会様から16件、合計30件の発表を、技術分野に応じて2会場に分けて実施しました。例年より短い発表時間でしたが、ご発表の皆様にはコンパクトに要点をまとめたわかりやすい講演をしていただきました。ショートプレゼンテーションでの各発表は、同日午後にD会場となっている3Fラウンジで、ポスター展示を行いました。こちらのD会場では、例年同様に協力企業12社による展示会も3日間にわたって開催いたしました。また、ショートプレゼンテーションに続いてA会場(3F多目的ホール)では、今回独立して新設した「3Dプリンティング」の一般講演2件が行われました。

同日午後には、特別セッションを開催し、本大会スローガンである『生活と社会を豊かにする画像技術』とテーマとして3件の講演をいただきました。我々の生活の中での画像による新たな価値の創造や、そのための新規な画像技術について理解を深め、議論する場として企画しました。最初に、デジタルファッション株式会社 森田 修史様より「ファッション・オン・デマンドの世界」についてご講演いただき、着せ替えシミュレータなどの画像技術により、デザ

インの高度化や、満足度向上、さらに効率化といった新たな価値を生み出している状況をご紹介いただきました。続いて、株式会社リコー 大谷 渉様より、同社がまさしくカメラの新しい価値を生み出すべく開発した全天球カメラ THETA について「全天球イメージの世界」と題して、ご講演いただきました。デジタル機器に囲まれて育った「デジタル・ネイティブ」世代を対象として、撮りたいときに撮れる、いつでも持ち歩ける、いつでも見られるといった 360 度カメラの商品コンセプト特徴と、それを実現する高度な光学技術、画像処理技術をご紹介いただきました。最後に、東京大学 山崎 俊彦先生には、「マルチメディア・ビッグデータ処理による魅力解析」というタイトルで、こちらも新しい着眼点での画像データ活用技術をご講演いただきました。我々が人やサービス、モノに対して感じる魅力を工学的に解析し、なぜ魅力を感じるか、何が要因か、そして魅力度を予測する技術について、プレゼンテーションや SNS コンテツ、婚活支援など、様々な事例をご紹介いただきました。いずれのご講演も、画像技術の新たな価値という点で優れた特長と、また相互の関連性を有しており、来場者の高い共感と関心を集めていました。

初日の最後のイベントとして、日本写真学会様との合同で懇親会を開催しました。懇親会では、両学会会長のご挨拶に始まり、この中で、両学会のベストポスター賞の発表と表彰も行われました。2 学会合同ということで例年以上の参加者数にご参加いただき盛況となり、両学会参加者間の交流も活発でした。

大会 2 日目(6 月 9 日(木))は、最初のキーノートにおいて「広がるインクジェット技術の応用; サインからデジタルテキスタイル、デジタル印刷へ」とのタイトルで、株式会社ミマキエンジニアリング 池田 明様よりご講演いただきました。デジタル印刷領域で幅広く応用用途を広げているインクジェット技術について、サイングラフィックス市場、産業用インクジェットプリント市場、テキスタイル/アパレル市場への展開と、それを裏付ける LED-UV 機構などの技術について解説していただきました。続いて、日本写真学会様との併催を記念し、特別講演として「日本写真学会 90 周年を迎えて 現状と今後」と題して、日本写真学会の深い歴史と現状の課題を、学会長である千葉大学 小林 裕幸先生にご紹介いただきました。過去写真がアナログからデジタルへ変貌する中での学会の役割と方針の変遷、そして会員数などに代表される会勢の推移をご紹介いただき、今後の課題として両学会の連携についてもご提案いただきました。

2 日目は、さらに、工学院大学 並木 則和先生による受賞記念講演「オフィス機器からの超微粒子発生量評価」と、今大会 2 件目の特別講演として、慶應義塾大学 渡辺 智暁先生から、「3D データ、3D 作品に関する著作権を考える」のご講演をいただきました。渡辺先生のご講演では、近年活用が広まっている 3D プリントに関連し、3D データも広く流通し始めている中で、重要な課題となってきた著作権について、3D 特有の事情と事例を解説していただきました。一般講演としては、インクジェット技術、画像処理技術を中心としたプログラム編成にしており、インクジェット (1) (2)、インクジェット計測/シミュレーション、画像再現シミュレーション、色/視覚/画像処理、の 5 つのセッションで、合計 18 件の発表がなされました。

2 日目の特筆すべきイベントが、日本写真学会様の一般講演でした。日本写真学会様では、6 月 8 日、9 日の 2 日間にわたって年次大会を開催し、初日はキャンパス内の別の会場を使用しましたが、2 日目の 9 日は、日本画像学会と同じ D 会場一般講演を開催しています。具体的には、D 会場では、日本画像学会の展示会が開催される中、初日に発表が行われたポスターパネルを周辺に配置した講演スペースをレイアウトし、その中で日本写真学会年次大会の講演

を実施しました。会場を複数のイベントで共有するという、初めての試みでしたが、会場担当委員を中心とした事前の入念な準備もあり、順調に進行することができ、D会場への来訪者の増加などの相乗効果も得られました。

最終日の3日目(6月10日(金))は、「電子写真を支える材料の過去、現在、未来 <トナー技術の発展>」と題し、富士ゼロックス株式会社 鈴木 千秋様に、キーノートスピーチをいただきました。電子写真技術の今後の発展のキーとなる主要因がトナー材料であるという認識のもとに、トナー技術の発展についてのご講演をお願いしました。トナーの構造と製法、特にケミカルトナーの各製法の特徴を解説していただき、今後の付加価値を生む技術として、メタリックトナーやMOE (Marks On Everything) 技術をご紹介いただきました。MOE 技術については、D会場でサンプル展示も行い、注目を集めました。

キーノートスピーチに続いて、千葉大学 坪井 彩子様による受賞記念講演「電極形状が銀析出型エレクトロクロミック素子の鏡面化特性に与える影響」と、特別講演として、株式会社ゼンリンの遠山 啓様から、「3D 都市モデルデータの活用」のご講演をいただきました。遠山様からは、Web やカーナビゲーションシステムで、地図デジタルデータ活用が進んでいる中で、従来の2次元データを3次元データへ移行し、構造や景観シミュレーションに活用したり、3Dプリントと連携したジオラマ作製などの新たな価値提供に取り組んだりしている状況をご紹介いただきました。一般講演としては、電子写真と電子ペーパー/エレクトロニックイメージング技術を中心として、電子写真デバイス、電子写真デバイス/材料、電子写真シミュレーション、ダイレクトイメージング/新規イメージング材料、電子ペーパー/エレクトロニックイメージング (1) (2)、の6つのセッションで、合計21件の発表がなされました。

ワークショップは、2日目に2テーマ、3日目に1テーマの、合計3テーマを設定して開催しました。ワークショップ1「3D 技術とイメージング技術の融合」では、進化する3Dプリンタ技術について、形以外の価値を提供するためのイメージング技術の活用という観点で話題提供、ディスカッションを行いました。ワークショップ2「イメージングカフェ 5周年企画：イメージングの未来を語ろう」は、2011年2月にスタートし、今年50回を超え6年目に入ったイメージングカフェを記念した企画で、過去5年間の講演の数々を振り返り、今後の我々の向かうべき方向や学会としての取り組み方について議論しました。ワークショップ3「インクジェットと電子写真、いまさら誰が気にする、何を気にする」では、誕生以来、あるときは競合し、あるときは棲み分けながらもマーキング技術として大きな役割を果たしてきたインクジェットと電子写真技術について、方式の違いの持つ意味を原理、技術に踏み込んで議論しました。

本大会参加者は、発表者、聴講者、招待講演講師、実行委員を含め343名、またワークショップ参加者は3テーマで、のべ53名でした。参加者、発表数は、前回ICJ2014より若干少ない規模となりましたが、日本写真学会様との併催のおかげもあり、大変盛況でした。それぞれの招待講演、一般講演とも企画の狙いに沿った先進的で意欲的な内容となっており、充実した意見交換や議論がなされ、第一線の研究開発者が集い、新しい研究や開発の視点を見出す貴重な機会として活用いただけたと考えています。

企画や運営上の工夫も、さまざま行ってきておりますが、至らない点や関係者にご迷惑をおかけした点がありました点を、お詫び申し上げます。本大会を運営するにあたってご協力いた

いただきました、東京工業大学関係者の皆様、大会実行委員の皆様、座長の皆様、学会理事・評議員の皆様、そして、発表者の皆様と発表をさせていただいたご所属の関係者の皆様に、厚く御礼申し上げます。来年度は画像連合会として同時開催するべく企画を行っています。次回も引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

年次大会併催と合同企画にご協力いただきました一般社団法人日本写真学会様および関係者の皆様、多大なご支援をいただきました公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー様に、深く感謝いたします。

2016年度 日本画像学会年次大会 実行副委員長：中山信行（富士ゼロックス株式会社）
プログラムは本稿後半に記載。



第2日目 A会場 キーノートスピーチの様子



第1日目 D会場 ポスター発表の様子

(2) 総会

2016年6月8日(水) 日本画像学会年次大会(第117回研究討論会) “Imaging Conference JAPAN 2016 (ICJ2016)”の開催初日に東京工業大学 すすかけ台キャンパスの「すすかけホール」において、第59回定時総会を開催した。2012年度から、出欠連絡と各議案の賛否投票について、web 回答可能な会員にはハガキ送付を廃止しており、今年度の個人会員の回答率は59.0%であった。回答率の推移は、2012年度 63.6%、2013年度 63.0%、2014年度 59.0%、2015年度 60.0%であり、今年度はほぼ昨年同様であった。理事を通じて各組織内会員へのweb 回答働きかけを行って、締め切り直前で定数をクリアするという状況は例年通りであり、さらなる告知、回答促進の工夫が必要であるとの認識を持った。

第59回総会は面谷会長の挨拶のあと、面谷会長を議長に選出して議事に入り、以下の議案について提案と報告が行われ、委任状を含み大多数の賛成により承認された。

- ① 2016-17年度役員候補の承認（第1号議案）
- ② 2015年度事業報告、同収支決算および監査報告の承認（第2号議案、第3号議案）
- ③ 2016年度事業計画および同収支予算の報告（第4号議案）

第59回定時総会の議案と議事録は、当学会ホームページからもご覧いただけます。

http://www.isj-imaging.org/about_ISJ/assembly.html

(3) 2015年度 日本画像学会表彰

日本画像学会は選奨規定に則り、2015年度学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、名誉会員、フェロー、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞の選考を行い、2016年6月8日開催の表彰式の席上で表彰と各賞の贈呈を行った。各受賞者は以下の通りである。

(敬称略) 掲載号：日本画像学会誌, 第55巻, 第4号, (通巻第222号), pp. 473-483

<論文賞 (第30回) 1件>

著者：Takayuki SHODA, Qi GAO (MCHC R & D Synergy Center),

Akiteru FUJII (Mitsubishi Chemical Corporation)

論文名：「Theoretical Study of Charge Transport Phenomena in Organic Electronics Devices」

掲載号：日本画像学会誌, 第54巻, 第6号, (通巻第218号), pp. 542 - 553

<研究奨励賞 (第23回) 3件>

① Kazuki Nakamura (Chiba University)

「Electrochemical Modulation of Emission and Coloration by Using Luminescent Lanthanide(III) Complex and Viologen Derivatives via Intermolecular Energy Transfer」

The 1st International Conference on Advanced Imaging, T401-03

② Yukihiro Hatae (Chiba University)

「Annealing Effect of Iron Carrier Beads on the Triboelectrification Behavior of Polymer Films」

The 1st International Conference on Advanced Imaging, PA1-11

③ 高木謙一郎(大阪府立大学)

「インピーダンス分光法による有機半導体材料の電荷寿命評価」

Imaging Conference Japan Fall 2015, C04

<フェロー (第3回) 2件>

中山信行 (富士ゼロックス株式会社)

酒井真理 (東京大学)

<技術研究賞 (第2回) 1件>

八代 徹 (株式会社リコー)

「エレクトロクロミック技術を利用した明るく鮮やかな新規反射型カラー表示技術の開発」

<技術賞 (第26回) 3件>

① 技術：「薄膜ピエゾ技術、Si-MEMS 技術を融合させた PrecisionCore テクノロジーの開発」

セイコーエプソン株式会社 小口 智、平井栄樹、福田俊也、渡邊峻介、福澤祐馬

② 技術：「A4 フレキシブル電子ペーパーを用いたデジタルペーパーの開発」

ソニー株式会社 塩浦邦浩、E ink Japan 株式会社 橋本圭介

③ 技術：「電子写真用 金銀メタリックトナーの開発」

富士ゼロックス株式会社 二宮正伸、濱野弘一、佐藤修二、高橋 賢、飯塚章洋

<日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞 (第11回) 1件>

長谷川靖哉 (北海道大学)

研究題目「希土類錯体の光機能創出と画像技術応用」

(4) 年次大会(第 118 回研究討論会)

「Imaging Conference JAPAN 2016 Fall Meeting」開催報告 (関西委員会)

実行委員長：石黒秀明(三菱製紙株式会社)

2016年11月17日(木)～18日(金)の2日間、日本画像学会研究討論会を京都工業繊維大学松ヶ崎キャンパス(京都市左京区)にて開催しました。画像関連学会連合会共同の秋季大会でもあり、今回で三回目を迎えております。今回は技術講習会実行委員会の発案、ご協力により、同日開催として関西技術講習会がチュートリアル形式で復活しました。

1日目の午前中は、日本写真学会様との合同講演会として、森嶋先生(名古屋大学)による「宇宙線イメージングで探るピラミッドの謎」、西田様(日本視覚学会会長)による「人間の質感認識の理解と応用」の二つの招待講演を行いました。なお、日本視覚学会様は本秋季大会に協賛していただいております。午後からはポスターセッションとしてショートプレゼンとポスター発表を実施しました。日本画像学会関連のポスター発表は13件、連合会全体では計47件の発表がありました。ショートプレゼンでは昨年同様、発表内容により二つのグループに分け、2会場で同時開催いたしました。「装置、材料」に関する発表をA会場で、「画像処理、視覚、色彩、教育、評価」に関する発表をC会場で行いましたが、C会場の発表が31件と多いのが今年の特徴でした。日本画像学会参加者と実行委員の投票によるベストポスター賞を毎年用意しておりますが、同率1位により高科さん(千葉大学)と菊間さん(東海大学)の2名が受賞しております。17:00からの基調講演は(株)便利堂の山本様によるコロタイプ印刷に関するものでした。

2日目は学会毎に分かれオーラルセッションが行われました。日本画像学会では、招待講演4件を含め合計13件の発表があり、活発な議論がもたれました。招待講演では第26回技術賞受賞記念講演3件に加え、酒井先生(東京大学)による drupa2016 に関して高速インクジェット技術に関する講演が行われました。また1階ロビーでは10社の機器展示が行われ、多くの方が熱心に質問していました。

2日間での通算参加者数は73名と昨年より増加しましたが、技術講習会がなければ若干減少というのが実態です。関西シンポジウム同様に参加者数をいかに増やすかが課題となっております。次年度も連合会による同会場での大会を予定しています。昔の関西のイベントは面白く集客力は凄かったとの声をよく耳にします。運用面での課題を改善し、関西色を無くさず、より魅力ある大会を目指してまいりますので、引き続き宜しくお願い致します。

なお、今回の受賞講演は以下の報告です。

○第26回技術賞

1. 高速、高画質、スケーラブルを可能にする次世代インクジェットテクノロジー” Precision Core”

渡邊峻介、他4名 セイコーエプソン(株)

2. A4フレキシブル電子ペーパーを用いたデジタルペーパーの開発

塩浦邦浩、他1名 ソニーセミコンダクター(株), E ink Japan(株)

3. 電子写真用 金・銀メタリックトナーの開発

高橋賢、他4名 富士ゼロックス(株)

プログラムは本稿後半に記載。

(5) 評議員会

2016年3月8日に東海大学校友会館（東京・霞が関）において開催し、2015年度事業報告、同財務報告、2016年度事業計画、同財務計画及びICJ2016概要説明と、それぞれの質疑応答を行った。

事業報告に関しては編集・技術・企画・コンファレンス・事業の各委員長からより詳細な説明を行った。

出席者は44名（評議員17名、顧問3名、役員他24名）で、終了後、特別講演会、懇親会を行った。

(6) 理事会

下記に示す日程で年間6回の理事会を開催し、学会運営・活性化に関する諸施策の審議、2015年度選奨、2016年度予算執行状況の確認、2017年度予算案の審議・承認等を行った。

・2016年

第1回：5月17日（火）15:00～18:00	霞会館
第2回：9月2日（金）10:00～12:15（午後：役員研修会）	霞会館
第3回：10月18日（金）15:00～18:00	霞会館
第4回：12月16日（金）15:00～18:00	霞会館

・2017年

第5回：2月16日（木）15:00～18:00	霞会館
第6回：3月10日（金）13:00～15:00	東海大学校友会館

2016年度の理事会活動では、昨年度同様にICJや各研究会の開催と画像関連学会連合会の3年目の活動の推進が中心であった。

さらに今年度は、面谷会長、三矢副会長、佐藤副会長の新執行体制となり、面谷会長のリーディングのもとに、学会の諸課題を抽出して改革計画策定を行い、順次実行を推進してきている。会勢拡大、財政再建、研究範囲拡大や停滞分野の再活性化、国際化といったテーマと目標を設定し、研修会で具体的なアクションを抽出して実行に移している。会勢拡大、研究範囲拡大の点では、視覚学会との連携強化や、新たな技術交流コミュニティの形成、コンソーシアムとの連携などを開始している。また、財政再建に関しては、学会イベントへの参加資格の見直しなど、学会運営ルールの観点でも検討を進めている。これらについては、運営委員会のパートも参照されたい。

(7) 事務局報告 事務局長 山崎 弘

イベント関連では、ほぼ例年通り研究討論会、研究会、講習会、フリートーキング、イメージングカフェを開催した。関西での技術講習会については新たな試みでチュートリアルを開催し、好評であった。イベントの開催回数23回、開催日数26日でイベント開催回数は昨年より2回増加。総有料参加者数は前年より下回った。ICJの参加者及び各研究会の参加者が減少傾向にある。しかし、収支としては前年より増加し、一昨年度とほぼ同水準に達する見込みである。

学会誌の発行部数は会員数の増減に連動し、毎号 1400 部前後である。年 6 回、編集委員会→印刷会社→発送会社経由で発行、配送されており、毎号、同梱チラシの配付先管理、日程管理及び会員の増減や住所変更への対応を図っている。

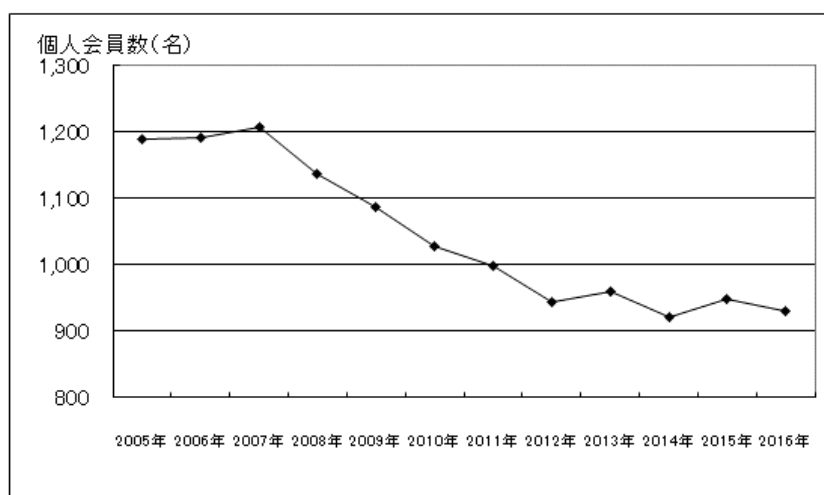
イベント参加登録の Web 経由システムは全ての研究会、研究討論会、講習会で実施しており少額参加費のイメージングカフェ（自動返信システム）とフリートーキングのみメールアドレスでの参加登録を行っている。

理事会、各種委員会・部会の開催件数は年間 100 件以上で活発な議論が交わされている。画像関連学会連合会代議員会及び秋季年次大会の連合会合同開催にむけたプログラム委員会等が開催された。

○年度別個人会員数の推移

2005 年度～2016 年度末までの会員数推移を示す。2008 年から会員数の減少が続いている。ここ数年 940 名前後に落ち着いており、1,000 名を回復できていない。

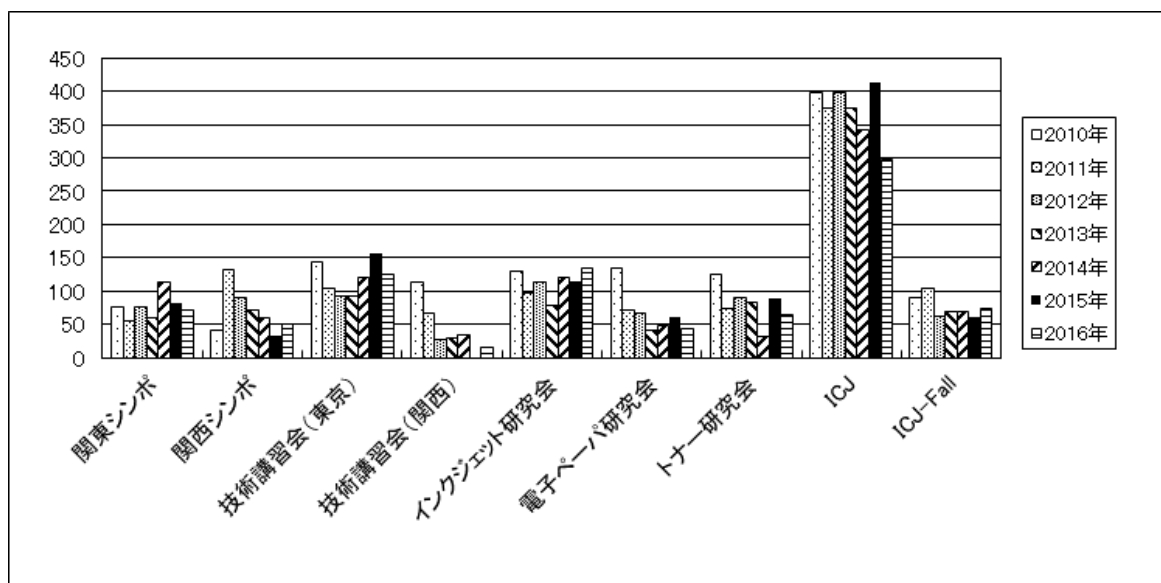
年度	個人会員数(名)
2005年	1,188
2006年	1,190
2007年	1,206
2008年	1,137
2009年	1,087
2010年	1,027
2011年	998
2012年	944
2013年	960
2014年	922
2015年	949
2016年	931



* 2016 年度は 12 月末の個人会員数

○学会の主なイベント参加者推移

2010 年度～2016 年度の当学会が主催する年次大会、研究会、講習会など、主なイベントの有料参加者数推移を示す。主要イベントの有料参加者数は前年より減少してきているが、研究会によっては参加者増もあり、テーマに依存するものと思われる。



(8) 運営委員会 委員長 中山信行 (富士ゼロックス)

運営委員会として例年通り学会活動の年間予定の作成、年6回の理事会の準備・議事進行・議事録作成、年次総会・評議員会の準備・運営など、本学会活動の運営全般を推進した。詳細はそれぞれの報告をご参照されたい。このほかに運営委員会が主導した2016年度の活動として、次の2点がある。

(1) 役員研修会

2016年9月2日(金)、霞会館にて役員研修会を開催した。今年度は面谷新会長より事前に9つの課題が提示され、それぞれ検討リーダーとメンバーがアサインされた。そのうち共通性の高い6課題について研修会テーマとして取り上げ、3チームで分担して検討した。以下を、各委員会などのアクションとして決定し、活動計画に盛り込んで検討中である。各委員会から素案を提案していただき、理事会審議の上で、実行に移していく。

- ・他研究会メンバーの取り込み(活動中)
- ・ICJ/講習会他研究会の参加資格/参加費の見直し(一部運用開始予定)
- ・会員募集案内の充実化(実施済)
- ・ICJの新企画
- ・学会誌の電子化と海外配信
- ・学会役員、委員の海外派遣
- ・ICJでの英語セッション設置や海外からの座長招聘
- ・そのほか(連合会連携強化策など)

(2) 執行部会

上記の課題検討の推進や実行の促進のため、また学会運営ルールの特明化などのため、随時執行部会を開催し、理事会提案を行っている。今後は、理事会開催の中間に定期開催するべく企画を行っている。

(9) 編集委員会 委員長 美才治隆 (リコー)

編集委員会を6回開催（うち1回は年間編集計画作成のため、神戸にて合宿を実施）、フリートーキング“Imaging Today”を2回開催し、学会誌年6冊を定時発行した。毎年1回特定技術分野にテーマを絞って英文論文を掲載するクラスタ論文誌も6回目となり、本年度は224号で「Science & Technology of Ink」をテーマに、論文2編、解説8編を掲載した。また、2015年6月に開催したICAI（The 1st International Conference on Advanced Imaging）のTrack4（Imaging Material and Devices）を中心に、日本画像学会会員の一般講演から学术论文としてリライトしていただいた論文8編および総説1編を、220号に「ICAI 論文特集」として掲載した。上記活動は、論文数増加（対2015年度9編増）してその効果が表れてきており、今後も継続して企画し、引用実績の増加にもつなげていく。

本年度は、以下に示す学会誌発行に関わる財務改善項目に取り組んだ。

- ① 表紙の幾何模様を特色（銀色）印刷からグレー印刷に変更→221号より実施
- ② 総会資料の大幅な削減（前年比40%）→222号に反映
- ③ 印刷会社内フロー見直しによる単価引き下げ→225号より実施

今後も、紙質等見直し等コストダウン活動を継続する。

2015年度画像関連学会連合会編集委員長会議にて企画された、連合会各学会誌の「共通英文アブストラクト」作成に向けての活動を開始した。それに伴い、オープンアクセス化の検討も平行して委員会内にて協議を進めている。

2018年の学会創立60周年に向け、理事会内に設立された60周年記念事業推進委員会の一員として60周年記念号の検討を開始した。編集委員会内に60周年記念号WGを発足し、2018年2月号（231号）を記念号とすることを決定し、構想からの編集作業を進めている。

219号 (Vol. 55, No. 1) 2月刊、132頁、巻頭言（会長）、論文4件、速報1件、解説1件、Imaging Today「医療・バイオ分野で活躍するプリンティング技術」解説9件、Imaging Highlight「Computer Vision Technologies Towards the Actualization of Robotic Scrub Nurses」、教育講座「読んで学ぶ有機半導体の基礎知識－材料からデバイスまで」、研究室訪問「斎藤隆文研究室 東京農業大学 大学院生物システム応用科学科/工学部情報工学科」、会報、会告、投稿案内、日本写真学会誌・日本印刷学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次、画像閑話

220号 (Vol. 55, No. 2) 4月刊、139頁、「ICAI 論文特集」論文8件、総説1件、Imaging Today「プリンティングを支えるポリマー材料」解説8件、Imaging Highlight「イメージングカフェ 2015 総括特別企画」・「デジタルテキスタイル ITMA2015 に見る新技術」・「電気泳動電子ペーパーの最新動向」、教育講座「読んで学ぶ有機半導体の基礎知識(2)－材料からデバイスまで」、研究室訪問「高次視覚情報システム（塩入・栗木・松宮）研究室 東北大学 電気通信研究所 人間情報システム研究部門」、会報、追悼文、会告、投稿案内、日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technologyの目次、画像閑話

221号 (Vol. 55, No. 3) 6月刊、136頁、論文4件、Imaging Today「カメラベース画像認識技術」解説6件、Advanced Technology「セルロースナノファイバー」解説3件、Imaging Highlight「電子写真 2015」・「インクジェット 2015」・「デジタルファブリケーション技術 2015」、教育講座「読んで学ぶ有機半導体の基礎知識(3)－材料からデバイスまで」、研究室訪問「金子研究室 東京工業大学 工学院情報通信系」、会報、会告、投稿案内、日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次、画像閑話

222号 (Vol. 55, No. 4) 8月刊、103頁、巻頭言(会長)、速報2件、論文1件、Imaging Today「環境対応技術」解説5件 Imaging Highlight「インド顔料事情」、教育講座「読んで学ぶ有機半導体の基礎知識(4)ー材料からデバイスまでー」、研究室訪問「平山研究室 大阪工業大学 情報科学部 情報メディア学科 マルチメディア応用研究室」、2015年度学会表彰、一般社団法人日本画像学会第59回定時総会資料、会報、会告、投稿案内、日本写真学会誌・日本印刷学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次、画像閑話

223号 (Vol. 55, No. 5) 10月刊、144頁、論文3件、Imaging Today「産業用インクジェットプリンタ技術」解説12件、Imaging Highlight「スーパーコンピュータ「京」訪問記」、教育講座「読んで学ぶ有機半導体の基礎知識(5)ー材料からデバイスまでー」、研究室訪問「梅津信二郎研究室 早稲田大学 創造理工学部 総合機械工学科」、会報、会告、投稿案内、日本写真学会誌・日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次、画像閑話

224号 (Vol. 55, No. 6) 12月刊、97頁、論文1件、クラスタ論文“Science & Technology of Ink” 依頼論文2件、依頼解説8件、Imaging Highlight「少子化問題に立ち向かう魅力イメージング」、研究室訪問「久下研究室 千葉大学 大学院 融合科学研究室 情報科学専攻 画像マテリアルコース」、会報、会告、投稿案内、日本印刷学会誌・画像電子学会誌・Journal of Imaging Science and Technology・影像科学与光化学の目次、画像閑話

第29回フリートーキング “Imaging Today” 「プリンティングを支えるポリマー材料」、2016年7月8日(金)開催、早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿区)、参加者28名

(予定)第30回フリートーキング “Imaging Today” 「産業用インクジェットプリンタ技術」、2017年3月17日(金)開催、早稲田大学西早稲田キャンパス(新宿区)、参加者予想80名以上

(10) 技術委員会 委員長 佐藤利文 (東京工芸大学)

1. 技術委員会全体の活動状況

(ア)2016年度より、委員長 佐藤利文、副委員長 酒井真理の体制でスタートした。

(イ)2016年12月19日(月)に第1回主査会議を開催し、部会の活性化等の課題について議論を行った。2017年1月25日(水)(技術委員会総会と同日)に第2回目の主査会議を開催した。

(ウ)年一度の総会は、委員全員が顔を合わせ交流する場および各部会開催の機会として、2016年度は2017年1月25日(水)に開催した(総会出席回答者73名、情報交換会出席回答者58名)。総会に先だって同日に11部会を開催した。

(エ)技術委員会部会活動の活性化と一般会員の参加機会拡大を念頭に、インクジェット部会がインクジェット技術関連トピックスのシェア、ディスカッションの活性化、若手技術者の育成、インクジェット技術の展開を目的としたコミュニティ『インクジェット技術交流会』を設立した。デジタルファブ리케이션部会も技術交流会立ち上げ準備を進めている。

(オ)イメージング材料部会活動活性化のため、8月より主査を交代(横山(大阪大学名誉教授)→長山(リコー))した。

(カ)日本視覚学会との学会間コラボレーションに関するブレインストーミングを開始した。2016年11月24日(木)に第一回ブレインストーミングを開催し、第二回が2017

年2月20日(月)に予定されている。

(キ)2016年4月～2017年3月の間にシンポジウム1回(電子写真技術部会:12/2)、技術研究会4回[サーマル記録技術部会:第127回(7/6)、インクジェット技術部会:第128回(9/30)、電子ペーパー/フレキシブル技術部会:第129回(10/21)、トナー技術部会:第130回(10/28)]を開催した。

(ク)第80回技術講習会(7/23-24)にて、①インクジェット技術部会主導でインクジェット入門講習(6/23終日)、②シミュレーション技術部会主導でシミュレーション実演講習(6/24終日)を実施し、技術講習会の内容充実に貢献した。

(ケ)画像処理関係の教科書について、「画像処理」教科書の制作の前段として、オーム社の特集記事を委員の協力を得て製作した。今後、不足分を補い、それらを含めて教科書にしていく予定。

(コ)選奨対象候補のエントリー数増加のために、技術委員会として各部会に積極的に候補抽出を督促し、技術賞、コニカミノルタ研究奨励賞等の候補抽出に貢献した。

(サ)休会中の画像評価部会から、長期休会の申し出があった。また、テストチャート維持業務等については、事務局と事業委員会とで相談して在庫の積み増へ対応していただきたい旨、要望が出された。

2. 各部会の活動状況

1) 画像評価技術部会

- ・2016年度休会。

2) 電子写真技術部会

- ・定例会8回(シンポジウム企画会議を含む)、合宿部会1回(ブラザーコミュニケーションスペース訪問)開催した。
- ・イメージングカフェ年末スペシャル「イメージング技術2016 徹底討論」(12月21日(金))にて「電子写真技術2016年とこれから」と題して、藤井委員(三菱化学)が発表した。
- ・日本画像学会シンポジウム「プリンティングの未来を創造するイノベーション」(12月2日、於:発明会館)を企画・開催した。

3) トナー技術部会

定例会を4回、合宿部会と研究会を各1回開催した。

主な活動項目は、以下の4つである。

3.1 標準キャリアの帯電量を検定するためのトナーの代替となる標準粒子の探索
新ロット検定トナー(P-01T)の検定値の確認他、検討を進めた。

3.2 トナー関連技術の深耕につながる技術研究会の企画及び開催

「トナー技術&イメージング材料技術の基礎を理解する」をテーマとした研究会を企画し、7つの講演を集めて、10月28日(金)に日本印刷会館にて開催した。

3.3 標準キャリアの利用を促すために研究会での標準キャリア関連の検討内容の報告。

3.4 大学/研究機関見学による委員の知識の拡大と、学生を対象とした産学連携となる講演の企画・実行。

その他、標準キャリアの頒布実績は、例年通りの安定した頒布実績(頒布個数合計74本)となっている。

4) 画像処理技術部会

- ・ 委員の年齢が上がり、業務が忙しく活動がままならない委員も出てきており、若返りなしでは活性化が難しいと考える。また画像処理の方向性も変わってきており、抜本的な改革が必要と考える。なんとか若手にバトンタッチし、方向性を明確にして再活性化を図って行きたい。
- ・ 「画像処理」教科書の制作については、その前段として、オーム社の特集記事を委員の協力を得て製作した。種々足りない部分もあり、それらを含めて教科書にしていきたい。

教科書構成(案) 「ハードコピー再現のための画像処理」

ターゲット：中級（プリンタメカ等の技術者、画像全般の基礎知識よりもう少し上の、出力プロセスなどの画質に関わる設計に従事する人が知っておくべきレベル）

デジタルカメラ等で入力した自然画データ等を含むドキュメントをハードコピー上に見やすく、きれいに、そして自然に見える様に出力するには、種々の画像処理を適正に行なう必要がある。入力系ではハードのむらや特性を補正して基準化したデータにする補正処理が、中間処理系では出力系の再現特性や視覚特性に合わせた階調の圧縮や強調、色域や色変換の処理が必要である。そして出力系では与えられた再現系で階調性を確保し、自然な再現を可能とするハーフトニング等の階調再現処理や、出力の均一化、安定化する処理が必要である。カラー補正、カラー変換については、ハードコピー出力に関連する部分に重点を置く。ダイナミックレンジの圧縮、変換に関連して、視覚特性や感性を考慮した再現処理の章を入れる。プロダクションプリンティング等との関連でフォントやベクトルデータの展開、処理フローの最適化にも触れる。

5) 画像技術用語部会

- ・ 画像用語集の頒布状況調査
2015年1件受注5冊、2016年1件受注4冊 → 年間5冊程度
イベントでの売り上げ無し
- ・ 各企業における用語集の活用状況の意見交換、WEB用語集に関するアクセス調査、魅力的な用語集・WEB用語集に関するディスカッションと対応案について各々準備を進めている。

6) インクジェット技術部会

- ・ 部会会合を6回開催した。
- ・ 『インクジェットインクの基礎から応用』 - 技術の誕生、進化、将来 - というテーマで9/30に発明会館ホールで技術研究会を開催した。有料参加者数134名（会員：88名、非会員：45名、学生：1名）。2015年の技術研究会は、インクジェット市場の変化・拡大に伴う新たな課題にヘッドは過去5年どう取り組んできたのか、この先5年どう取り組んでいくのかをテーマとした。今年はインクの立場から、市場変化とインク技術進化の関係をとり上げる研究会を企画した。講師には各インクの基礎的な知識、歴史も講演内容に盛り込んでいただき、インク技術を俯瞰する好適な技術研究会となった。また、注目度が高い今年の drupa の出展内容もインクの立場から報告した。技術研究会から見えてきたのは、市場の変化による新たな課題にヘッドは自らの技術進化で応えてきたのに対し、インクはインクの技術進化が市場の開拓や変化を起してきたという立場の違いである。今回、多くの方に関心を持っていただき研究会に参加い

ただいたのは、インク技術の市場への影響力の大きさを認識しているからかもしれない。

- ・ インクジェット技術交流会設立：インクジェット技術関連トピックスのシェア、ディスカッションの活性化、若手技術者の育成、インクジェット技術の展開を目的としたコミュニティ「インクジェット技術交流会」を設立した。1/23 にアナウンスを行い、現在メンバー募集中である。参加資格は個人会員、もしくは維持会員の名前指定者とし、毎年開催している技術研究会とは異なる年 4~6 回程度のイベントへの参加資格を得る。イベントとしては基礎講習会のより詳細な内容のアドバンスト技術講習会、特定のトピックスに絞ったミニ WS、見学会、交流会などである。意見交換の場として Facebook の(Closed)グループを活用し、情報発信として交流会のホームページも作成した。 <http://www.isj-imaging.org/inkjet-sig/>
- ・ 4/21 に大判インクジェットによるルネッサンス絵画の複製を行っている日立の DIS プロジェクトのデジタルミュージアム(横浜)を訪問した。また 12/2 にデジタル捺染、アナログ捺染(スクリーン、ロータリー)を行っている和歌山の日吉染業を訪問し、捺染のプリ・ポストプロセスを全て見学した。
- ・ 第 80 回技術講習会のインクジェット分野を担当：2015 年度に引き続き、今年度もインクジェットに関する基礎講座を、書籍構成をもとに部会メンバーが中心となり実施した。また、応用講座として「3D プリンタ概論」、「オフィス向けインクジェット」を実施した。

基礎講座(6/23)

- ・ インクジェットの方式の分類と特徴、課題と対応 1 章、8 章 藤井 (富士ゼロックス)
- ・ システム技術 7 章 江口 (リコー)
- ・ ヘッド技術 2 章 中島 (キヤノン)
- ・ インク/メディア技術 4 章、5 章 岡田 (DIC)
- ・ 画像形成技術 6 章 角谷 (セイコーエプソン)
- ・ インクジェットの今後の展開 9 章 酒井 (東京大学)

応用編(6/24)

- ・ 3D プリンタ概論 藤井 (富士ゼロックス)
- ・ オフィス向けインクジェット 奥田 (理想科学工業)
- ・ 12/21 開催の Imaging Café 年末スペシャルにて、コニカミノルタの朝武氏が drupa 報告を含め、インクジェット分野を担当し発表した。
- ・ 2008 年に上梓した書籍「インクジェット」の第 5 刷(500 部)が決定。また、2008 年以降、応用展開の進展で新たに主要な技術になったものなどを加えた改訂版を提案。理事会で承認され、出版社に依頼中。

7) 電子ペーパー/フレキシブル技術部会

- ・ 定例部会を 5 回開催した。
- ・ 2016 年 10 月 21 日 (金)、日本化学会館ホールにて、電子ペーパー/フレキシブル技術部会主催の技術研究会「電子ペーパー/フレキシブル技術研究会」を開催した。昨年の部会名称変更に伴い、当初の電子ペーパーの狙いである、紙のように“薄く”、“軽く”、“フレキシブル”な技術や用途展開も対象として広げ、今回の研究会では、『プリンテッドエレクトロニクスと電子ペーパーの新展開』と題して、電子ペーパーの最新技術

と新たな応用、プリントエレクトロニクスの技術と応用展開、について 8 件の講演を行った。また、例年通り参加者と直接議論できる場として、電子ペーパーの最新の製品と技術の展示の時間を設定した。

- ・合宿を 2016 年 8 月 19 日(金)~20 日(土)に実施した。コロイダル・インク (岡山大学からのスピナウト) を見学し、金原社長から技術と事業に関して講演をいただいた。
- ・イメージングカフェの年末スペシャル (12/21) において、電子ペーパー/フレキシブル技術 (産総研 吉田さん) について講演した。

8) サーマル記録技術部会

- ・2016 年 7 月 6 日(火)に日本印刷会館にて、サーマル記録技術部会主催による 2016 年度第 1 回技術研究会 (通算 127 回) を開催した。当日は 44 名 (会員 25 名、非会員 10 名、学生 1 名、講師 8 名) の皆様にご出席いただき、活発な質疑応答が交わされた。
- ・サーマル記録技術部会では、部会にあわせてメンバーの所属する企業等の施設見学を兼ねた持ち回りの部会を実施している。2016 年は 7 月の研究会の開催に向け、5/11 に富士フイルム本社 (六本木ミッドタウン) を訪問して部会を実施し、併設の OI-Hub 見学も実施した。

9) イメージング材料部会

- ・部会活動活性化のため、8 月より主査を交代 (横山 (大阪大学名誉教授) → 長山 (リコー)) したが、実質的な活動には着手できていないことから、これまでの部会が捉えていた「イメージング材料=有機半導体材料」というスコープの範囲を再設定し、日本画像学会の技術分野としての活発な活動へと展開する。
- ・他技術部会との協創活動に対して、各技術部会でスコープとして取り上げたい「材料」候補を挙げて頂きたい。

10) シミュレーション技術部会

- ・技術講習会で実施するシミュレーション実習についての打ち合わせ、今後の進め方を議題とする部会を 3 回開催した。
- ・第 80 回技術講習会(6/24)にてシミュレーション実習を担当。
OpenFOAM によるインクジェット吐出シミュレーションで実習を実施。
出席者 9 名 (申し込み 12 名、うち 2 名キャンセル、1 名当日欠席)。
出席者全員が最終課題 (IJ 吐出: 図参照) まで到達。アンケート結果も好評。

11) デジタルファブ리케이션部会

- ・Printing for Fabrication 2016 (NIP32) への運営参加
2016 年 9 月 27 日~10 月 1 日英国マンチェスターで開催された IS&T NIP32 にて Committee とセッション運営に参加した (Publicity Chair:梅津、Program Chair (Asia & Oceania): 鈴木幸栄、Steering Committee:藤井、Session Chair:小田、西、梅津、藤井、鈴木幸栄、酒井)。
- ・「Functional 3D Additive Manufacturing」を協賛
2016 年 11 月 25 日 (金) ナガセグローバル人財開発センターで開催された IEEE CPMT Society Japan Chapter 主催「Functional 3D Additive Manufacturing」を協賛 (幹事: 小田)。
- ・第 56 回イメージングカフェでの話題提供
2016 年 12 月 21 日(水)に開催されたイメージングカフェ「イメージング技術 2016 徹

底討論」でデジタルファブリケーション・他の技術の話題提供を行った。

担当：酒井真理（東京大学）

- ・技術交流会の立ち上げ準備を始める。

12) 画像感性部会

- ・日本視覚学会との学会間コラボレーションに関するブレインストーミング

2016年11月24日(木)に霞会館にて、日本視覚学会代表者との学会間コラボレーションに関する第一回ブレインストーミングを開催した。双方少人数による話し合いが望まれたため、画像学会側からは、画像感性部会の企業会員を中心にご参加いただいた。両学会の参加者は以下の通り。

日本視覚学会：内川 恵二 先生(神奈川大学)、岡嶋 克典 先生(横浜国立大学)、鯉田 孝和 先生(豊橋技術科学大学)、塩入 諭 先生(東北大学)

日本画像学会：上田 昌史(ブラザー工業)、面谷 信(東海大学)、竹内 達夫(キヤノン)、服部 好弘(コニカミノルタ)、鎔谷 賢治(リコー)

- ・2017年2月20日(月)に第二回のブレインストーミングを開催予定（1月末現在）。

(11) 企画委員会 委員長 酒井真理（東京大学）

本年度はイメージングカフェの企画および運営を行った。以下に活動詳細を報告する。

● イメージングカフェの企画および運営

交流空間『イメージングカフェ』は、2011年に開始以来、本年度4月で50回の開催を迎えた。50回開催を記念して、第50回イメージングカフェでは、東京大学名誉教授の原島 博先生をお迎えし、「人生画像三昧」と題して50年近くにわたる研究者人生を振り返りながら、先見性に満ちた数多くの研究を紹介いただいた。また、ICJ2016では、「イメージングカフェ5周年企画：イメージングの未来を語ろう」と題して、今後の我々の向かうべき方向や学会としての取り組み方について議論するワークショップを開催した。本年は4年に一度の drupa の開催年にあたり、第51回ではその直前情報、第52回では視察報告をタイムリーに取り上げ、合わせて121名もの参加者を得た。第53回は、印刷博物館（文京区水道）を会場とし、凸版印刷様のご協力により、VR シアターや博物館見学を含めた文化財のデジタルアーカイブへの取り組みを学芸員の方に紹介いただいた。これらを含め、本年度は東京地区で夏の納涼祭スペシャルと冬の年末スペシャルを含め9回、関西地区で2回のイメージングカフェを開催する。関西地区では、3年ぶりの開催となるが、地区の特徴に合わせて、業務での参加ができるように午後3時からの開催とし、テーマも実務的な品質工学を取り上げることで、多くの方に参加いただき好評であった。冬の年末スペシャルでは、例年通り「イメージング技術徹底討論」と銘打って、この1年を振り返ったイメージング技術のトピックスを関連技術委員会より紹介していただき討論を行った。

本年度の『イメージングカフェ』開催要項および開催内容は以下の通りである。

- ・会場 恵比寿カルフル、東工大蔵前会館、他
- ・参加費 会員 1,000 円、非会員 2,000 円（1ドリンク付き）
サマースペシャル： 会員 4,000 円、非会員 6,000 円
年末スペシャル： 会員 4,500 円、非会員 6,500 円
- ・参加資格 会員は日本画像学会個人会員（維持会員は含まず）、その他は非会員として受け

付ける。

● 開催内容

- 第 50 回 2016 年 4 月 22 日 人生画像三昧
..... 原島 博 (東大名誉教授)
- 第 51 回 2016 年 5 月 20 日 デジタル化が進むパッケージ印刷の最新動向
～ drupa2016 直前情報 ～
..... 木村哲雄 (プリンテクノ)
- 第 52 回 2016 年 6 月 24 日 デジタル印刷技術・市場の将来を読む
～ drupa2016 視察報告 ～
..... 酒井真理 (東京大学)
- 第 53 回 2016 年 7 月 29 日 VR で見る文化財デジタルアーカイブ、印刷博物館見学
～ 圧倒的な臨場感と没入感の VR で文化財を堪能しよう ～
..... 小川恵司、加茂竜一 (凸版印刷)
- 第 54 回 2016 年 9 月 9 日 液体電子写真技術について語ろう
～ 画像形成技術としての特徴とデジタル印刷への展開 ～
..... 寺岡努
- 関西第 3 回 2016 年 9 月 16 日 開発期間の短縮と市場トラブル撲滅は両立できるか？
～ 品質工学で成功した画像技術開発の事例紹介 ～
..... 芝野広志 (TM 実践塾)
- 第 55 回 2016 年 10 月 21 日 色彩の基礎と測定
～ 物体色知覚のしくみから測色計の原理まで ～
..... 渡辺浩二 (コニカミノルタジャパン)
- 第 56 回 2016 年 12 月 21 日 イメージング技術 2016 徹底討論
・藤井 章照 (三菱化学) 電子写真技術部会
・朝武 敦 (コニカミノルタ) インクジェット技術部会
・吉田 学 (産総研) 電子ペーパー部会
・酒井 真理 (東京大学) デジファブ部会
- 第 57 回 2017 年 2 月 3 日 IP ネットワーク監視カメラの製品・技術・最新動向と
将来展開への夢
..... 蓬澤信哉 (キヤノン)
- 関西第 4 回 2017 年 3 月 3 日 液体電子写真技術の変遷とその特徴
～今後のデジタル印刷への展開～
..... 寺岡努
- 第 58 回 2017 年 3 月 17 日 (予定) バリアブルプリントに発揮するビッグデータ活用
とコミュニケーション・プランニング

● 開催結果

第 50 回から第 56 回と関西第 3 回の合計 8 回の開催で延べ会員 167 名、非会員 104 名、合計 271 名の参加者を得た (講師・企画委員を含まず、今年度はあと 3 回開催予定)。2015 年度は、合計 10 回の開催で延べ会員 144 名、非会員 95 名、合計 239 名の参加者であっ

た。

(12)コンファレンス委員会 委員長 三矢輝章(リコー)

2016年度は次のメンバー構成で活動し、2016年6月8日、9日、10日に東京工業大学すずかけ台キャンパスにて、年次大会 ICJ2016 (Imaging Conference JAPAN 2016) を実施した。本大会は日本写真学会との併催にて実施した。

メンバー 委員長：三矢(リコー)、委員：大西(ミマキ)、竹内(キヤノン)、小林(千葉大学)、木村(富士ゼロックス)、山崎(日本画像学会)、岸(リコー)、中山(富士ゼロックス：2016年度ICJ副実行委員長 兼任)、長山(リコー：2017年度ICJ副実行委員長)

2017年 年次大会 (Imaging Conference JAPAN 2017：ICJ2017) は、学術総合センター 一橋大学一橋講堂 2017年6月20日、21日、22日に実施予定、運営幹事会社をリコー殿にお願いした。〔実行委員長：村山久夫氏、同副委員長：長山智男氏、一宮孝司氏〕

ICJ2017 実行委員会の立上げに際し、以下を実施した。

- ・ 2017年の合同開催は年次大会として4学会(日本印刷学会、日本写真学会、画像電子学会、日本画像学会)揃踏みを決定した。
- ・ 日本画像学会 Vision55 に整合することを確認した上で、2017年の ICJ スローガンを画像関連学会連合会 2017 合同大会のスローガン「協創で築く豊かな画像文化-Enriched Imaging Culture by Co-innovation」と一致させた。
- ・ 国際化：2ndICAI, 2019年実現に向けて国際交流委員会との協力の基で、画像関連学会連合会において準備を牽引、ロードマップを策定した。

(13) 事業委員会 委員長 大橋豊史(三菱化学)

標準キャリア(担当：トナー技術部会)に関しては、新規標準品頒布はないが、今年度の頒布数は29セットで、昨年33セットに対して若干減少しているものの、コンスタントに販売が進んでいる。

テストチャート(担当：画像評価技術部会)に関しては、新規学会チャート頒布はないものの、従来のテストチャートの今年度頒布数は500枚の大量注文を受け、総数で628枚となり、前年の18枚に対して極端な増加となった。数年毎に大きく変動する傾向が続いている。

スクリーンゲージについては18セットと昨年の6セットに対して増加はしているが、傾向としてある程度の数量で販売が継続している状況である。

2008年6月に刊行した「デジタルプリンタ技術」シリーズ4巻は電子ペーパーを除き、ある数量の販売が継続しており、特に「インクジェット」は講習会での活用等もあり、販売数量が増加している。また、「インクジェット」については改訂増補したいとの声もでていいる。シリーズ全体では年間累計約340冊程度販売されたものと思われる。

4巻の累計の実売数と市場在庫はつぎのとおりである。

(提供：東京電機大学出版局 2016年12月現在)

- ① 電子写真 4刷 3,633部(前年+56)
- ② 電子ペーパー 1刷 1,772部(前年+10)

③ インクジェット 4刷 3,731部(前年+202)

④ ケミカルトナー 2刷 2,078部(前年+69)

[協賛依頼]

○2016年

会期	タイトル	主催学会
5/18-20	第28回「電磁力関連のダイナミクス」シンポジウム(SEAD28)	日本機械学会
6/1	画像電子セミナー(Advanced Image Seminar 2016) 「次世代人工知能技術の最新動向と応用」	画像電子学会
6/11	「よくわかる図解カメラの仕組み」技術講座	日本オプトメカトロニクス協会
6/23-24	品質工学会 第24回研究発表大会 全体最適への原点回帰 ーマクロ視点での品質工学の実践ー	品質工学会
7/13	色材分散講座 ー分散の基礎と応用ー	色材協会関西支部
8/18-19	第49回塗料基礎講座	色材協会関西支部
9/5-8	International Conference on Flexible and Printed Electronics 2016	山形大学 ROEL
9/9	「コンピューショナルイメージング」技術講座	日本オプトメカトロニクス協会
9/12-16	Printing for Fabrication (NIP32)	IS&T
9/29-30	第40回静電気学会学術講演会	静電気学会
10/6	「図解による光学入門」技術講座	日本オプトメカトロニクス協会
10/13-14	2016 ワークショップ「IoT社会を先取りする先進実装」 ～実装のあらたな役割を探る～	エレクトロニクス実装学会
10/20	JOEMセミナー「奥行き知覚と立体表示」	日本オプトメカトロニクス協会
10/24-28	2016年国際ゴム技術会議(IRC 2016 Kitakyushu)	日本ゴム協会
11/2	平成28年度 画像保存セミナー	日本写真学会
11/7	コロイド先端技術講座Ⅱ「先端エレクトロデバイスに効く！コロイド界面化学」ーエレクトロデバイスのための材料・プロセス革新ー	日本化学会 コロイドおよび界面化学部会
11/7-10	第31回高速度イメージングとフォトニクスに関する国際会議 (31st International Congress on High-Speed Imaging and Photonics)	第31回高速度イメージングとフォトニクスに関する国際会議組織委員会
11/7-11	CIC 24 『Twenty-fourth Color and Imaging Conference』	IS&T
11/9	色材講演会 ー色材領域における最近の話題ー	色材協会関西支部
11/11	画像電子学会第38回秋期セミナー テーマ:標準化 ー研究の出口をこれからのビジネス視点で考えるー	画像電子学会
11/14	色を操る技術最前線 ー発光色・演色性・蓄光・塗料ー	近畿化学協会機能性色素部会・同エレクトロニクス部会
11/15	第41回顔料物性講座 分散制御と新素材	色材協会関東支部
11/17	第24回カメラ技術セミナー	日本写真学会

11/28	色材アドバンスセミナー2016（東京） ーバイオベースポリマーの開発最前線ー	色材協会
12/8-9	第13回色材 IT(インクジェットテクノロジー)講座	色材協会
12/13	「色彩工学」技術講座	日本オプトメカトロニクス協会

○2017年

会期	タイトル	主催学会
1/20	JOEMセミナー 「自動運転を支える画像と認識の技術」	日本オプトメカトロニクス協会
2/2-3	「デジタルカラー画像の解析・評価」技術講座	日本オプトメカトロニクス協会
2/8-10	Page2017	日本印刷技術協会(JAGAT)
2/28-3/3	The 5th IEEEJ International Workshop on Image Electronics and Visual Computing	画像電子学会
3/9-10	シンポジウム「モバイル'17」	モバイル学会

(14) 広報委員会 委員長 長山智男 (リコー)

広報委員会では、会員への情報サービス提供活動として、日本画像学会のホームページ(URL: <http://www.isj-imaging.org/isj.html>) の継続的な管理運営を行った。1997年に開設して以来、664,000件を超えるアクセス数(2013年1月31日現在)となり、2016年度単年度では28,000件以上の閲覧を数えた。この閲覧者数は、2015単年度より3,000件多い。

2016年度は、年次大会(ICJ2016)の開催に同期して学会公式Facebookを開設し、大会の様子などをリアルタイムに発信した。その後も、各種イベントにて活用している。

会員の皆様の関心のある技術領域と技術委員会部会活動との連動ができる仕組みの一つとして、「SNSの積極活用」を提案し、運用のためガイドライン等の整備を実施した。

学会事務局IT化に関しては、「学会保有の情報資産の電子アーカイブ化」を重要課題として捉え、インフラ整備等について学会事務局と連携し、実施中である。

(15) 選奨委員会 委員長 内藤裕義 (大阪府立大学)

選奨規定に則り、学会賞、功労賞、論文賞、研究奨励賞、会長特賞、技術賞、技術研究賞、日本画像学会コニカミノルタ科学技術振興財団研究奨励賞について、それぞれ選考委員会を組織して受賞候補者を厳正に選考し理事会に推薦した。

(16) 国際交流委員会 委員長 藤井雅彦(富士ゼロックス)

2016年9月の役員研修会にて日本画像学会の国際化にむけた取り組みを検討した。その結果、国際化のあるべき姿と実現のための具体的施策として以下をまとめた。

① 国際化のあるべき姿

- A 世界の画像技術者・研究者の集まる拠点(HUB)になる
- B 日本語の壁を取り払う
- C 会員(理事、各委員会委員)に日本人以外のメンバーがいること(10%目標)

② 施策

- 1 海外への情報配信(学会誌)方法の変更(電子)

- 2 海外の学会・大学、企業との技術交流→日本画像学会から海外への参加・宣伝
- 3 英語のセッションの設置
- 4 海外からの座長(発表者も連れてくる)
- 5 英語のHPの更新を日本語サイトと同じにする
- 6 画像学会の全ての活動において、国際化を意識する

このうち国際交流委員会は2,3,4を他の委員会と協力しながら進めて行く。このため2017年度は新たな委員の選任を行う予定である。

(17) 関西委員会 委員長 狩野 篤 (京セラドキュメントソリューションズ) 関西シンポジウム2016

実行委員長：加藤智久(三洋化成工業株式会社)

2016年5月13日(金)、ハートピア京都(京都 丸太町)にて2016年度関西シンポジウムを開催いたしました。「今わかるプリンティング技術の最前線」ー豊かな衣(医)食住を求めてーというテーマのもと、身の回りに関わりのあるプリンティング技術や画像評価技術の講演と、講師の方をパネラーとしたパネルディスカッションを行いました。講演はプロダクション系の電子写真関連、金銀トナー、マイクロ波を用いた定着システム、インクジェットでは捺染・産業用IJインク、画像評価など幅広い分野にわたり、各分野で活躍中の方々にその内容を紹介していただきました。パネルディスカッションでは今後の技術革新やビジネス展開の可能性などについて、会場からの質問を交えながら意見交換しました。会場からの多くの質問とパネラーの的確な回答により中身の濃いものになりました。

今回のシンポジウムでは幅広い分野の講演を集めたことで多くの方々に参加していただけたと考えています。アンケート結果からも今回のシンポジウムが好評であったことがうかがわれ、今後さらなる発展が期待されます。

参加人数：50人(会員44名、非会員5名、学生1名)

【発表テーマと講師の皆様】

- ・プロダクションプリンターの進展を支える電子写真技術
森 智英 (コニカミノルタ株式会社)
- ・デジタルテキスタイル～海外展示会に見る最新動向～
城田 衣 (キヤノン株式会社)
- ・産業用インクジェットインクの、用途開発事例
上野山 泰世 (紀州技研工業株式会社)
- ・金・銀メタリックトナー
濱野 弘一 (富士ゼロックス株式会社)
- ・電子写真方式におけるマイクロ波を用いたトナー定着
吉門 進三 (同志社大学)
- ・印刷物における画像評価の今までとこれから
坂井 直樹 (株式会社リコー)

【パネルディスカッション】

座長：岡崎貴彦(バンドー化学株式会社)

パネラー：講演者のみなさま

(18) 財務委員会報告 委員長 服部好弘 (コニカミノルタ)

- 2015 年度収支決算を行った。会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会の決議を経て総会にて2015 年度決算の承認を得た。2016 年度予算は、次のような方針で立案し、理事会の承認を得た。
正会員費収入は、2015年度実績並とする。研討・研究会と講習会参加費は、昨年度実績額にICJ開催と増加見込み分を加味する。全体としては183万円の赤字予算。国際会議準備基金（特定資産）積み立てを前年度同様に計上する（積立金50万）。用語集改訂見送り、新規出版分を見直し計上する。
- 1月末時点での事業活動収支の見込みとしては約200万円の黒字となる。
収入の部では、テストチャートの大口受注があり、会員会費収入減、研討・研究会参加費減、講習会参加費減となるものの、当初予算に対し、540万円の収入増が見込まれる。支出の部では、テストチャートの製作費が発生したものの、研討・研究会開催費、講習会開催費は会場費等の節減、会誌発行費はコストダウン活動による単価低減等により支出が抑制された。新規出版準備が遅れ出版物作成費の発生は遅れている。
- 会計処理規程に則って2016年度半期決算を行い、会計士による財務チェックと監事による監査を受けた後、理事会に報告し承認を得た。

(19) 特別講演会

2016 年 3 月 8 日 評議員会の後、コニカミノルタ（中国）投資有限公司 II テキスタイル営業部セールスマネージャー稲田寛樹様による「デジタルテキスタイルの最新動向」の特別講演会を開催した。

(20) 技術研究会

●2016 年 7 月 6 日（水）日本印刷会館にてサーマル記録技術部会主催による 2016 年度第 1 回日本画像学会技術研究会（通算 127 回）を開催した。参加者数は 44 名（会員 25 名、非会員 10 名、学生 1 名、講師 8 名）の皆様にご出席いただき、活発な質疑応答が交わされた。今回は『サーマル技術の基礎と未来』～微細な熱源の可能性～というテーマにて以下 8 件のご講演をいただき、サーマル記録の基礎の部分や今後の応用展開への期待について議論がなされた。

- 基調講演 サーマルプリンティングの歴史と製品開発マネジメント
間野 茂（一橋大学大学院）
- DTP の簡易熱設計に向けた熱伝導評価手法
福江 高志（岩手大学）
- サーマルヘッド各要素が及ぼす熱応答性への影響解析
大長 章治郎（ローム）
- レーザーを用いた熱モード記録 ーリライタブル記録と今後の方向ー
堀田 吉彦（リコー）
- 感熱記録システムの高画質化に学ぶ
米田 純一（北海道大学）、寺嶋 尚久（富士フイルム）
- 材料面からみた熔融型熱転写記録
瀬戸 忠雄（TTP コンサルタント）

7. サーマルヘッド用発熱体の基礎と応用 対馬 登 (岩手大学 生産技術研究センター)
8. 構造柔軟性を有したサーマルエネルギーハーベスター
末森 浩司 (産業技術総合研究所)

●2016年9月30日(金)発明会館ホール(東京都港区虎ノ門2-9-14)にてインクジェット技術部会の2016年度第2回日本画像学会技術研究会(通算第128回)を開催した。有料参加者数134名(会員88名、非会員45名、学生1名)。

テーマ 『インクジェットインクの基礎から応用』 - 技術の誕生、進化、将来 -
講演テーマ、講演者は以下のとおり。

1. 総論 藤井 雅彦 (インクジェット技術部会)
 2. インクジェット用水性インクの歴史と技術 林 広子 (セイコーエプソン)
 3. ワイドフォーマットインクジェットプリンター用インクの歴史と技術
間 清二 (東洋インキ)
 4. Drupa2016 レポート - インクから見たインクジェット印刷の最新動向 -
岡田 真一 (DIC)
 5. UVインクの基礎と特許から見たインク設計 朝武 敦 (コニカミノルタ)
 6. デジタル捺染の色材とインク設計 城田 衣 (キヤノン)
 7. 水性顔料インクにおける着色微粒子の特性 高橋 茂樹 (花王)
- 座談会「実はここが知りたかったインクジェットインク」

●2016年10月21日(金)、日本化学会館ホールにて、電子ペーパー/フレキシブル技術部会主催の技術研究会「電子ペーパー/フレキシブル技術研究会」(通算第129回)を開催した。参加者は、65名だった(正会員10名、維持会員7名、協賛学会からの参加者4名(SID日本支部3名、画像電子学会1名)、非会員21名、学生1名、名誉会員1名、講演者8名、デモ展示3名、部会委員10名)。一般参加者は47名で、昨年的一般参加者60名を下回り、一昨年的一般参加者と同数だった。日本画像学会会員以外および非会員の参加者が約半数を占めるのは例年通りである。昨年に引き続きSID日本支部と映像情報メディア学会に協賛していただき数名の参加者があった。材料メーカーからの参加者も多く、アンケートの回答からは材料関連技術者が材料技術の用途を探るために参加していることがわかってきた。

テーマ『プリンテッドエレクトロニクスと電子ペーパーの新展開』

【講演】

1. エレクトロクロミックを用いた調光および加飾シート技術の開発 八代 徹 (リコー)
2. 電子ペーパーサイネージ 檀上 英利 (凸版印刷)
3. 黒色粒子を用いる視認性の高い構造色の発現と利用 桑折 道済 (千葉大学)
4. フレキシブル・プリンテッドエレクトロニクスの基盤技術と応用展開
時任 静士 (山形大学)
5. 全印刷有機TFTによるアクティブマトリクス駆動-感圧センサフィルムデバイス
西 眞一 (JAPER/コニカミノルタ)
6. 電子ペーパーの未来を拓く：電子タイル&オンライン・ペーパー
柴田 博仁 (富士ゼロックス)

7. 電子ペーパーの可読性 宮尾 克 (名古屋大学)
8. 電子書籍の教材活用と電子ペーパー 鈴木 道典 (マイクロコンテンツ (元有斐閣))

【展示】

E-ink、凸版印刷、リコー、千葉大学の 4 社/大学

●2016年10月28日 (金) 日本印刷会館 (東京都中央区新富) において、トナー技術部会企画による2016年度第4回日本画像学会技術研究会 (通算第130回) を開催した (参加者は65名: 講演者・委員除く)。研究会テーマ『トナー技術&イメージング材料技術の基礎を理解する』、講演テーマと講演者は以下の通りである。

1. トナー技術の発展<過去、現在、未来> 二宮 正伸 (富士ゼロックス)
2. 高機能化を支えるトナーバインダー技術 久保 貴史 (花王)
3. トナーに使用される顔料 原田 大輔 (クラリアントケミカルズ)
4. トナーの基礎特性評価技術 島田 泰拓 (ナノシーズ)
5. トナー市場の現状報告、今後に関する予測報告 小林 茂樹 (ジェネシス)
6. 材料面からみた熔融型熱転写記録 戸 忠雄 (TTP コンサルタント)
7. 二酸化チタンや二酸化珪素や他の金属酸化物ナノ粒子のリスク評価 蒲生 昌志 (産総研)

(21) シンポジウム

2016年12月2日 (金) 発明会館 (東京都港区虎ノ門 2-9-14) にて技術委員会電子写真技術部会企画・運営によるシンポジウムを開催した。

【題目】「プリンティングの未来を創造するイノベーション」

～商品企画、研究開発からフィールドサポートまで～

【参加者】 89名 (会員65名、非会員5名、学生1名、講師7名、委員11名)

【講演内容】

1	drupa 2016 に見るプリンティング産業変革の潮流	平倉 浩治	HiRAK
2	ものづくりの共創オープンイノベーションプラットフォーム Wemake ～富士ゼロックスとの取り組みについて	大川 浩基	A(エイス)
3	iQUAVIS を活用した開発プロセス支援	沢田 茂	コニカミノルタ
4	産学官連携による大規模シミュレーションの最新事例	中山 信行	富士ゼロックス
5	放射光を用いた顕微鏡によるトナーの観察技術	山形 卓	リコー
6	imagePRESS C10000VP～カラープロダクションプリンターに求められる高画質と高い生産性の実現～	太田 光弘	キヤノン
7	ビッグデータ活用による MFP ビジネスのマーケティング・サービス革新	内田 圭亮	リコー

(22) 技術講習 開催報告 事業委員長 大橋 豊史 (三菱化学)

第80回 技術講習会

2016年6月23日(木)、24日(金)の両日、東京工業大学すずかけ台キャンパス内すずかけホール(横浜市緑区)にて、第80回技術講習会を開催した。

- ・ 有料参加者数は124名[正会員・維持会員:96名 非会員:28名 学生:0名]、昨年より33名減。直近5年を見れば回復基調だが、総参加企業・団体数は62社と昨年から10社減。首都圏を中心に北海道・九州を除く全国各地からの参加は例年同様。
- ・ シミュレーションは昨年度同様「インク吐出シミュレーション」を実施、参加者9名と好評。

展示会社数は7社[昨年は5社]、トレックジャパン株式会社様、コニカミノルタ株式会社様、株式会社フォトロン様の常連3社、3年連続で日立工機株式会社様、株式会社ケー・エヌ・エフ・ジャパン様の2社、以前出展頂いていた富士フィルムグローバルグラフィックシステム株式会社様と、新規出展会社として株式会社フィッシャー・インストルメンツ様に御参加頂いた。

今年初めて参加者の持込サンプル測定を行い、参加者アンケートでは好評。また展示会社様からの評判も良く、参加者/展示会社様双方にとって持込サンプル測定は好ましい。ただ、会場の関係で現状では8社が限界、増加に向けた別場所での対応が必要。

アンケート結果を以下に報告します。参加者の傾向を把握し、参加してよかったと思われる講習会とします。

- ◆ 例年通り20代の割合高い[47%]傾向は変わらないが、30代がここ数年同様に30%代と多い。

若手の人材教育以外に、中堅の方が復習や知識の深化に講習会を活用してくれている。

- ◆ 参加目的は例年通り『基礎知識の習得』が大半
- ◆ 経験年数も例年通り3年未満の方が半数程度で、昨年同様に5年以上が約30%と経験豊富な人が多く参加し、幅広い経験層の方が利用してくれている。
- ◆ 担当業務は例年通り『電子写真』が最多だが、初めて参加者の半数を割り44%に。時代の流れか?

IJ関連講義を充実した効果で、『IJ』は過去最多タイの35%。

- ◆ 専門分野は例年通り化学が半数[47%]で、その他分野の順位も例年通り。
- ◆ 展示会については非常に役に立った&役に立ったが過去最多タイ[39%]
- ◆ 講習会参加につながった情報元は例年通り紹介が1位で8割弱。

学会誌経由の人がここ数年減少を続け今年初めて10%を割り9%[この3年で21%→9%に減少]紙ベースより、メール・HPなどでの電子媒体での情報発信の重要性が高まっている。

2016年度も引き続き基礎知識習得に重きをおき、日本画像学会技術委員会との連携をさらに密にし、若手技術者の専門技術習得の場となれるような内容、企画を検討していく。

次回第81回技術講習会は2017年7月13日(木)、14日(金)に本年と同じく東工大すずかけホールにて開催予定。

- ・ 1日目 第1会場(多目的ホール)《電子写真:入門講習・各論》

1. 電子写真プロセス基礎技術入門 渡辺 猛様 (東芝テック)
2. 電子写真用現像剤の基礎 栄田 朗宏様 (花王)

- 3. 電子写真関連展示会社様からのショートプレゼンテーション 各社展示会社様
- 4. 電子写真感光体の基礎 長山 智男様 (リコー)
-動作原理と各層の機能の解説および開発動向について-
- 5. 2成分現像プロセスの基礎と技術検討事例 峯岸 なつ子様 (コニカミノルタ)
- 6. 電子写真プロセスの基本と技術動 栗田 篤実様 (富士ゼロックス)

・1日目 第2会場 (集会室1) 《インクジェット：入門講習・各論》

- 7. インクジェットの方式の分類と特徴、 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス)
今後の課題と対応
- 8. インクジェットシステム技術 江口 裕俊様 (リコー)
- 9. インクジェットヘッド技術 中島 一浩様 (キヤノン)
- 10. インクジェット関連展示会社様からのショートプレゼンテーション 各社展示会社様
- 11. インク／メディア技術 岡田 真一様 (DIC)
- 12. インクジェットプリンタの画像形成技術 角谷 繁明様 (セイコーエプソン)
- 13. デジタルファブリケーション 酒井 真理様 (東京大学)
～イメージング技術の製造への応用

・2日目 第1会場 (多目的ホール) 《電子写真に関する技術講習・各論／基礎教育講座》

- 14. 電子写真用 画像処理技術 美斉津 亨様 (富士ゼロックス)
- 15. 結晶構造を基礎とした有機顔料の発色理論 水口 仁様 (信州大学)
- 16. トナー用外添剤の機能と応用 内藤 直弘様 (日本アエロジル)
- 17. 粉体工学 (基礎と理論) 松坂 修二様 (京都大学)
- 18. 排出後処理技術概論 徳間 直人様 (キヤノンファイテック)

・2日目 第2会場 (集会室1) 《インクジェットに関する技術講習・各論／基礎教育講座》

- 19. サーマル記録技術の基礎とさらなる発展に向けて 山本 忠司様 (ローム)
- 20. 印刷適性に関連した紙の基本的物性と解析技術 江前 敏晴様 (筑波大学)
- 21. 3Dプリンタ概論 藤井 雅彦様 (富士ゼロックス)
- 22. 界面化学入門 近藤 行成様 (東京理科大学)
- 23. オフィス向けインクジェット 奥田 貞直様 (理想科学工業)

・2日目 第3会場 (集会室2) 《シミュレーション実演実習》

- 24. イントロダクション 川本 広行様 (早稲田大学)
- 25. OpenFOAM とは 田村 和也様 (富士ゼロックス)
- 26. 実習1：毛細管シミュレーション (2次元) 加川 哲哉様 (コニカミノルタ)
- 27. 実習2：毛細管シミュレーション (軸対称2次元)
石田 英樹様 (京セラドキュメントソリューションズ)
- 28. 実習3：インクジェット吐出シミュレーション 長谷部 恵様 (富士ゼロックス)

技術講習会実行委員会 委員長： 和田 光央 (三菱化学)

委員：大柴 知美（コニカミノルタ）、萬道 律雄（王子製紙）、加賀田 尚義（セイコーエプソン）、吉田 稔（東芝テック）、笠間 稔（富士ゼロックス）、稲葉 繁（富士ゼロックス）、茂村 芳裕（キヤノン）山崎 弘（元コニカミノルタ）、小橋川 翔太（リコー）、
事業委員長：大橋 豊史（三菱化学） 事業委員：吉田 稔（東芝テック） 上原 康博（富士ゼロックス）

電子写真シミュレーション実演講習は、シミュレーション技術部会（門永主査：リコー）との共同開催